I

令和5年度　派遣学生：石原朋輝

カナダ中間報告

2023年11月10日

報告概要

①小学生の第二言語習得者への指導法について学ぶ：10月10日～10月20日

②日本の小学生に注目した指導法について学ぶ：10月23日～11月3日

①小学生の第二言語習得者への指導法について学ぶ
10月10日～10月20日

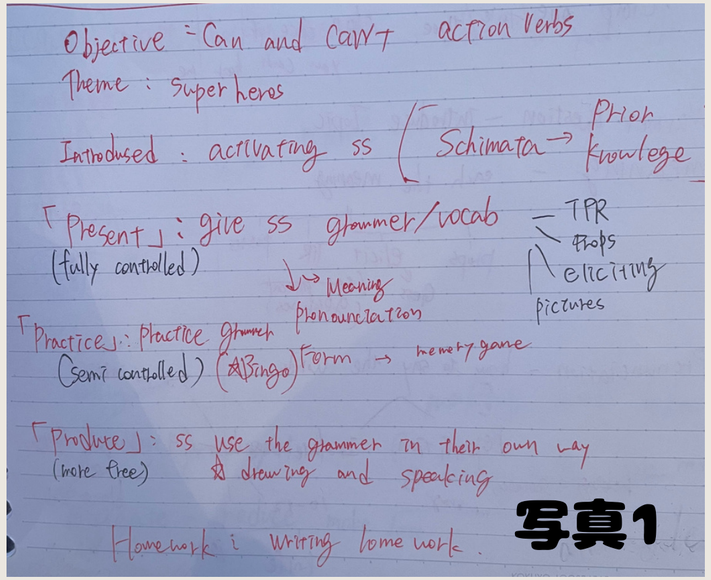


写真1

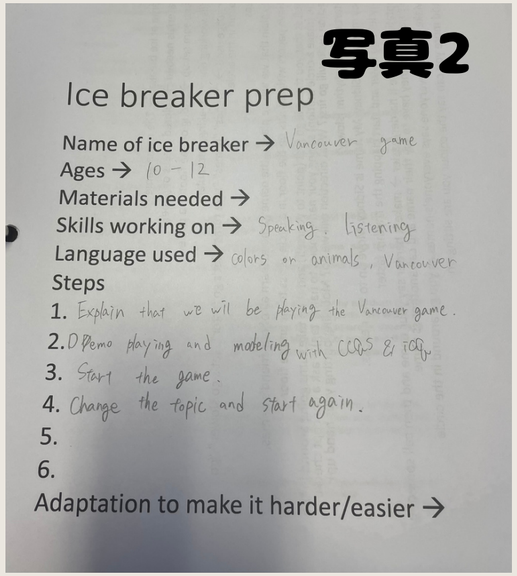


写真2

・最初の2週間では第二言語としての英語習得を目指す子ども達への指導方法を学びました。

指導に必要な要素(写真1)を学んだ後、実際に授業内容を組み立て(写真2)、実際の授業を想定して1人で発表します。

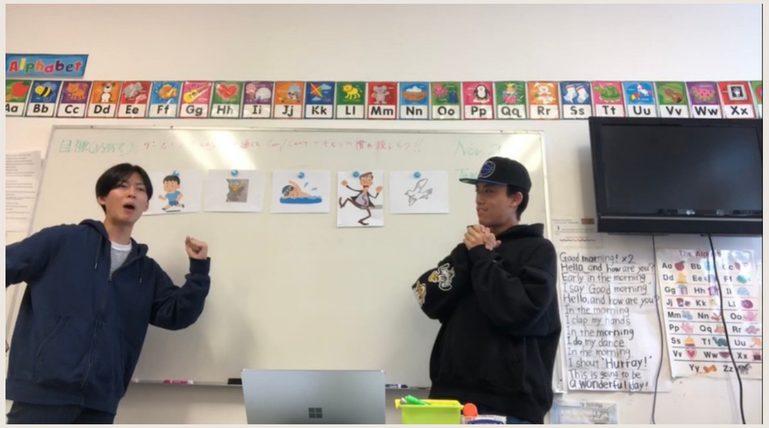
スタンダードな単語、文法の授業だけでなく、本、映像、歌などの要素を使って英語を教える際の工夫なども知ることができました。
またこの期間では、特に指導スキルを中心に学んでいきました。

・実際に体験して気づいたことは大きく2つあります。

①単語や文を実践的に使うアクティビティに多く時間を取ること
②授業導入部分の大切さ

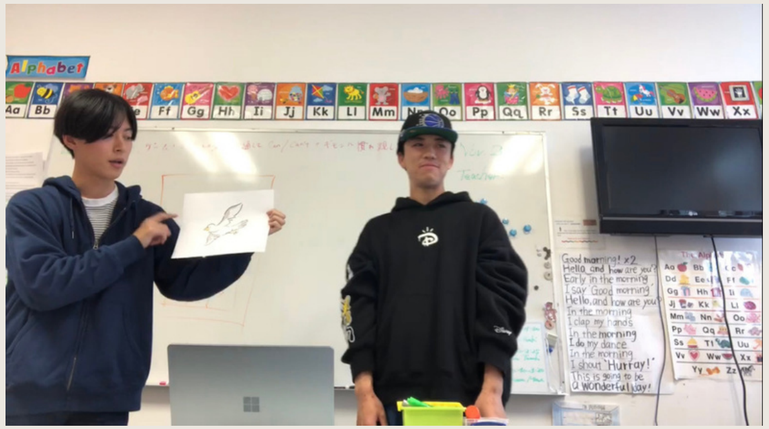
特に導入は、いかに子供たちに座学感、勉強感を感じさせず英語学習に向かわせるかという非常に重要なファクターだということがわかりました。子どもたちの興味・関心のあるトピックを盛り込んで単語や文法学習に繋げていくのは、非常に難しいものでした…

②日本の小学生に注目した指導法について学ぶ
10月23日～11月3日



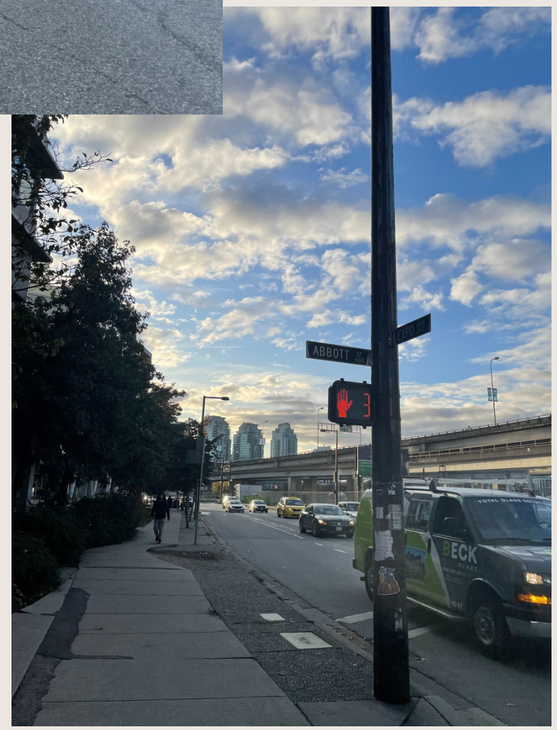
・次の2週間では、①日本の英語教育の現状、歴史を学ぶこと、②前週で学んだ指導スキルも使いながら、2人1組でALTと日本人教師を想定し、授業を組み立てて実践する訓練を行いました。

最終的には1組40分の授業を想定して発表をしましたが、前週の1人で行う授業とは違い、ALTと日本人教師で互い連携をしながら授業を遂行することの難しさを切に実感しました。



・日本人小学生に指導するにあたり、特に留意されていた点は①単語や文章を何度も復唱させること、②音楽を多く活用することです。指導において英単語や文を復唱させる回数が前週のものより明らかに多くなり、音楽をBGM的に活用することも多くなりました。

日本の英語学習ではアクティビティにも時間はとりますが、その前の復唱等の、単語や文をインプットする時間の方がの多く時間を使って指導している印象でした。



今後について

写真はカナダ・バンクーバーの街並みです。町では様々な人種の人たちを見ることができます。

カナダは移民が多く、カナダで生まれた移民の子たちは両親の言語を聞いて育つので、第一言語が英語ではありません。そのような子たちをネイティブレベルの英語力に成長させるカナダの教育は、目を見張る部分が沢山あると思います。

今後の実習ではバンクーバーにあるデイケアに行き、子供たちの生活や先生の動きを見て、カナダの教育の実態を探っていきます。

最終的に日本の教育とも比較し、より良い英語教育とは何かを考えていきたいと思います。